

R 4 学校評価アンケート 分析・対応等 (R4.10.12 現在)

回答数：73人中57人の回答が得られた(78%) 【R3：91%】

1. 「[5]わからない」の回答率が高い項目

*全体あるいは各学部ごと集計で、「[5]わからない」の回答が20%を超えた質問項目(6項目)

- | | |
|---------------------|------------------------|
| 「21 働き方改革への努力」 | 「25 体罰の防止への努力」 |
| 「27 保護者意見の支援計画への反映」 | 「29 関係機関と連携したコロナ対策」 |
| 「33 センターの機能の役割遂行」 | 「39 『学校預かり金』のわかりやすい提示」 |

分析

- ・(全体) コロナ対応のため PTA 総会の書面開催や授業参観、懇談等の中止・延期、学校行事の分散開催等保護者の来校機会の減少が影響。
→本来は PTA 総会で説明するところが書面開催のみであったので、わかりにくかったのかもしれない。
- ・(全体) 印刷物やホームページ等を活用した保護者への周知の努力や工夫不足。
- ・(29) 関係機関との『連携』という点がわかりにくかったのか、特に小中学部に[5]の回答が多かった。(36,37,38)のコロナ対応については高評価をいただいている。
- ・(33) 他校の児童生徒のための機能であるため、当校の地域支援センターとしての役割についての周知が弱い。
→後期からセンターとしての取組通信を発信
- ・(39) 昨年度からの項目であるが、[1][2]の回答が全体で80%→66.7%評価が下がり、[5]が全体で28.1%、『学校預かり金』のわかりやすい提示の対応は必要。

対応

- ・(全体) 地域の感染状況を踏まえ、学校医と連携を図り、感染症対策を引き続き継続しながら、行事や活動を実施し、授業参観は可能な限り設定していく。今年度も、次回1月に授業参観を計画。また、懇談の際に学習の様子や成果、課題についての綿密な情報提供を実施。
- ・(全体) 印刷物やホームページ等を活用した情報提供をさらに続ける。
- ・(21) 保護者の関心が薄くなりがちな内容であるが、趣旨や具体策等を定期的に発信

するとともに、内容に応じ「働き方改革の観点」との関連を明示。

- ・ (25,27)日々の連絡ノートや懇談等で保護者との緊密な連携の継続。心のアンケート等により、児童生徒の様子を丁寧に観察し、情報共有・組織対応を継続して徹底。
- ・ (33) 正面玄関に掲示板を10月より設置し、支援センターたよりを発行している。
- ・ (39) わかりやすい提示の仕方を検討する。

2. 「[1]よくあてはまる」「[2]ややあてはまる」の回答率が高い項目

[1][2]を合わせた肯定的回答率が90%以上が8項目(R3:22項目)、80%以上が33項目(R3:35項目)と、昨年度よりも項目は少なくなっているが、82.5%の項目で肯定的な評価を得ている。

分析

- ・ 当校職員の熱心で丁寧な指導・支援が保護者からの一定の理解に結実。教員の自己研修・授業スキルの向上等の努力も反映していると思われる。

対応

- ・ 組織や自己も含め研修研鑽の機会も継続的に実施。
- ・ 保護者との、連絡ノートや電話による、より緊密な情報交換の継続。

3. その他

- ・ 今年度初めて、フォームズ(forms)を利用したアンケートを実施した影響か、回答率が低かった。(回答者73人中15人が紙での回答20%)
- ・ 昨年度(28)進路指導の項目の[5]18.7%→12.3%になった。
 - 進路通信は、配付とホームページへの掲載をしている。
 - 昨年より保護者向け進路研修会を実施。今年度11月予定
 - 今後は、小学部中学部段階から、懇談時に進路に関する話題や卒業後のこと等を取り上げるようにする。